

## 鶴見岳・伽藍岳の火山活動解説資料（平成 27 年 12 月）

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 12 月の活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況（図 1～6）

鶴見岳監視カメラ（大分県）による観測では、噴気は認められませんでした。

2～3日に現地調査を実施しました。赤外熱映像装置<sup>1)</sup>による観測では、伽藍岳周辺及び鶴見岳地獄谷赤池噴気孔ともに、熱異常域の分布に特段の変化は認められませんでした。

#### ・地震や微動の発生状況（図 7）

火山性地震は観測されませんでした（11月：4回）。

火山性微動は2012年1月の観測開始以降、観測されていません。

#### ・地殻変動の状況（図 8、図 9）

GNSS<sup>2)</sup>連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

- 1) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。
- 2) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。



図 1 鶴見岳・伽藍岳 鶴見岳・伽藍岳の状況  
(12月19日、鶴見岳監視カメラ（大分県）による)

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 28 年 1 月分）は平成 28 年 2 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、国立研究開発法人防災科学技術研究所、大分県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』、『基盤地図情報』、『基盤地図情報（数値標高モデル）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

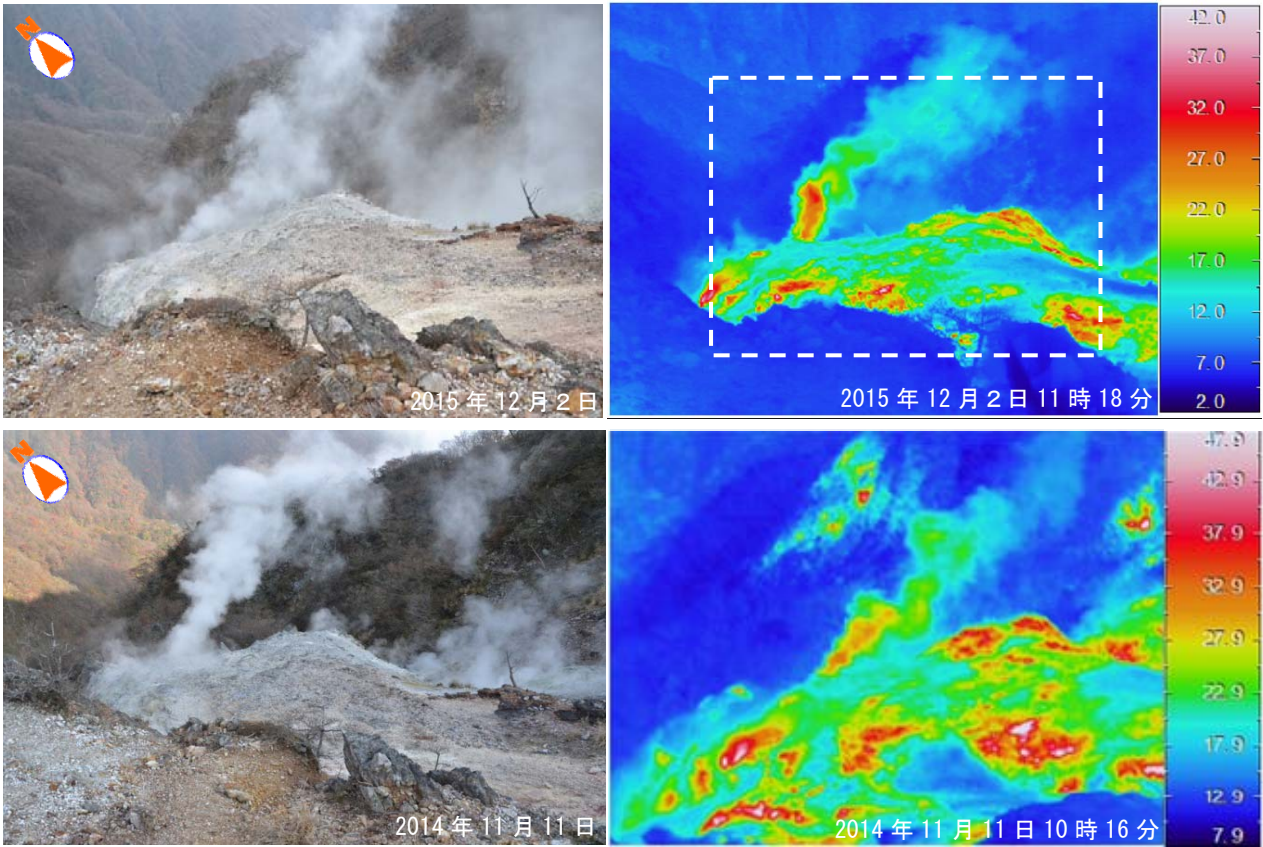


図2 鶴見岳・伽藍岳 鶴見岳地獄谷赤池噴気孔の赤外熱映像装置による地表面温度分布  
熱異常域の分布に特段の変化は認められませんでした。

上段の白枠内は下段の撮影範囲を示しています。

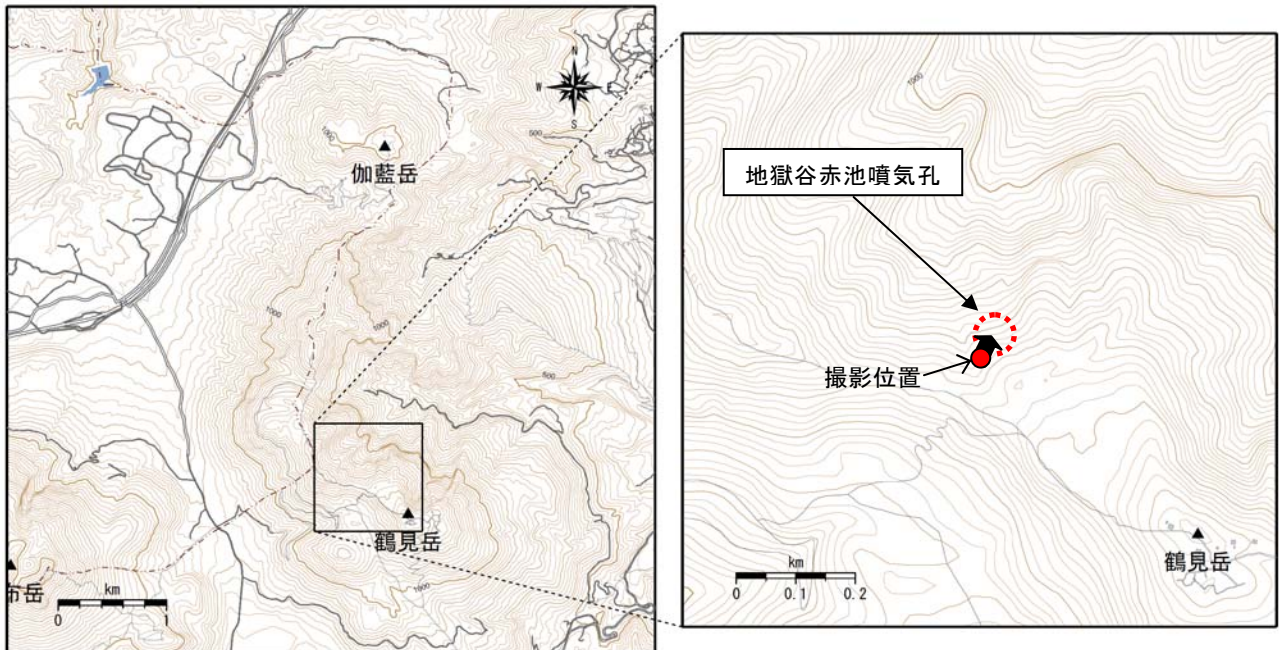


図3 鶴見岳・伽藍岳 地獄谷赤池噴気孔の位置及び図2の撮影位置と撮影方向

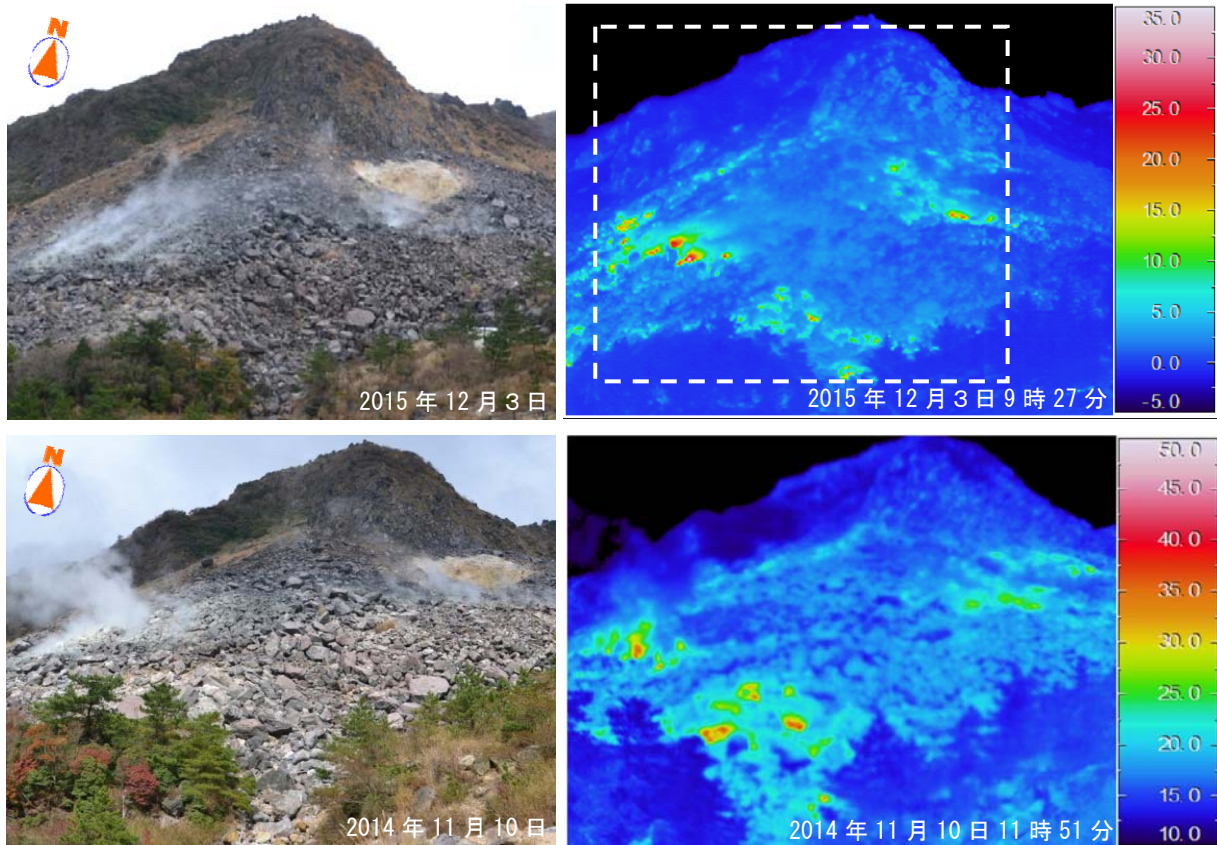


図 4 鶴見岳・伽藍岳 伽藍岳噴気地帯の赤外熱映像装置による地表面温度分布

熱異常域の分布に特段の変化は認められませんでした。

上段の白枠内は下段の撮影範囲を示しています。

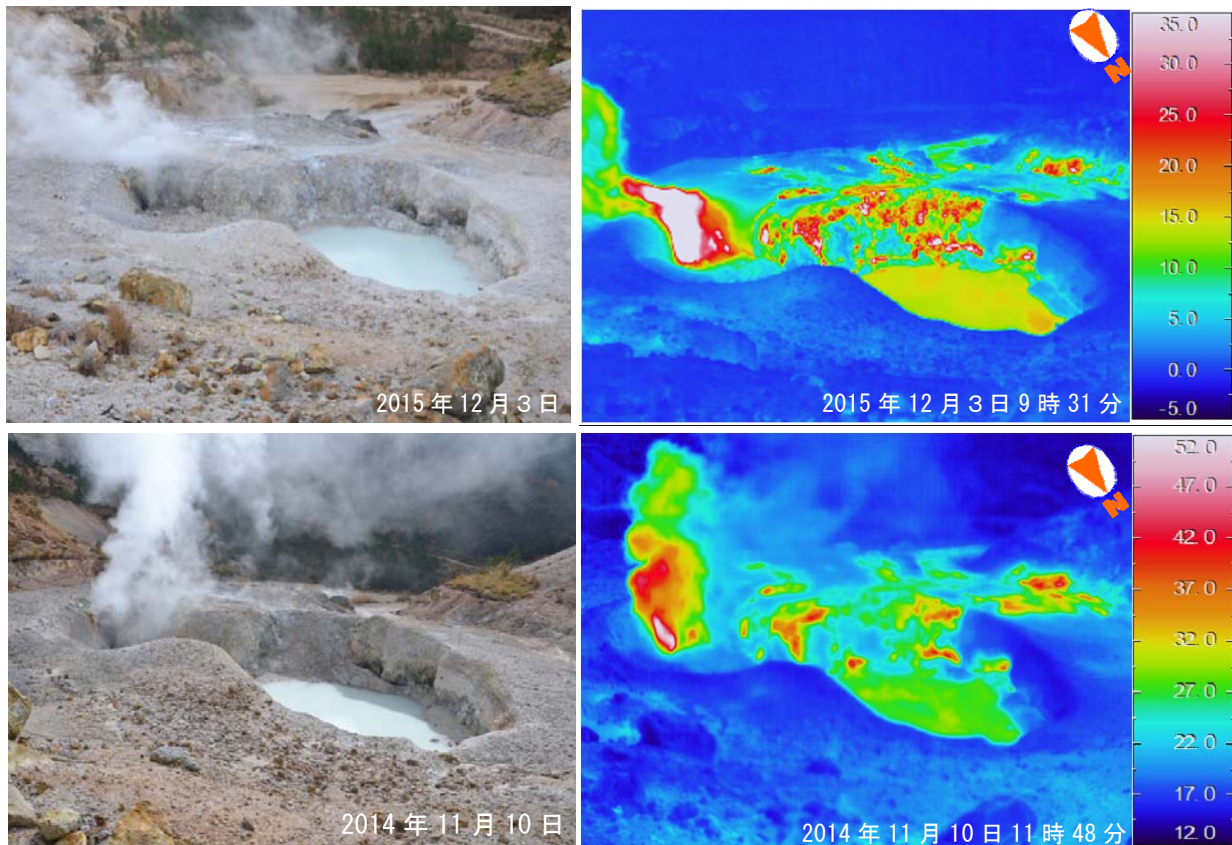


図 5 鶴見岳・伽藍岳 伽藍岳泥火山の赤外熱映像装置による地表面温度分布

熱異常域の分布に特段の変化は認められませんでした。

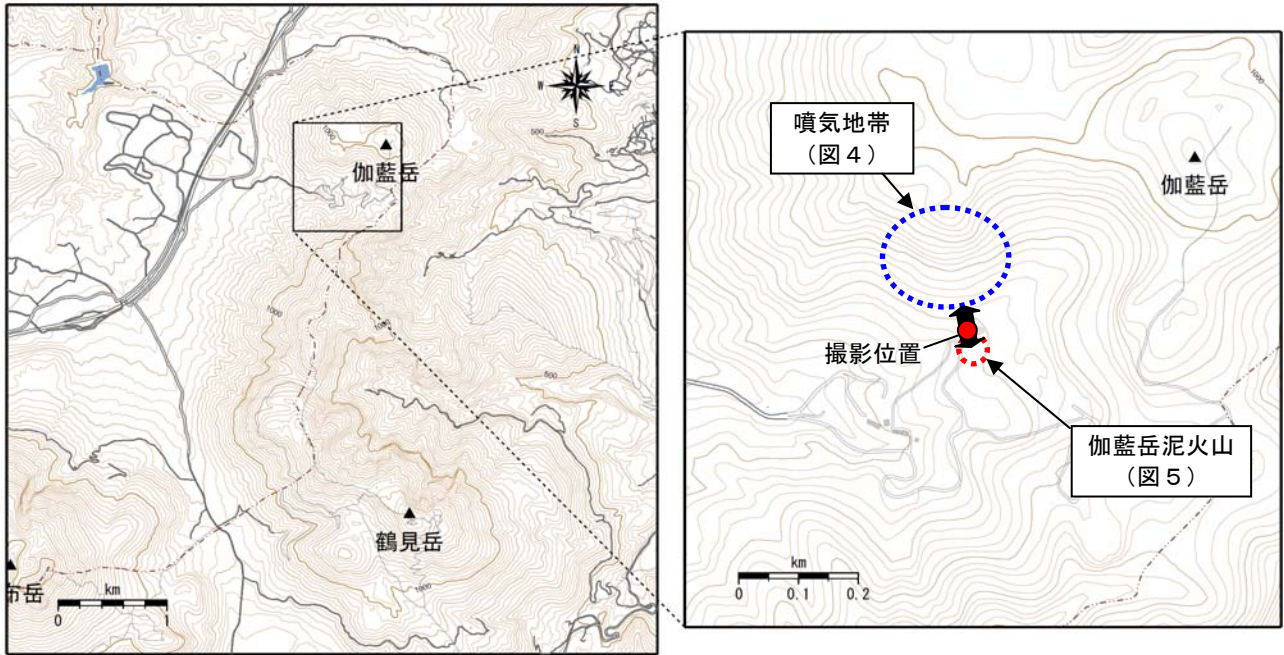


図6 鶴見岳・加藍岳 加藍岳泥火山と噴気地帯の位置及び図4、図5の撮影位置と撮影方向

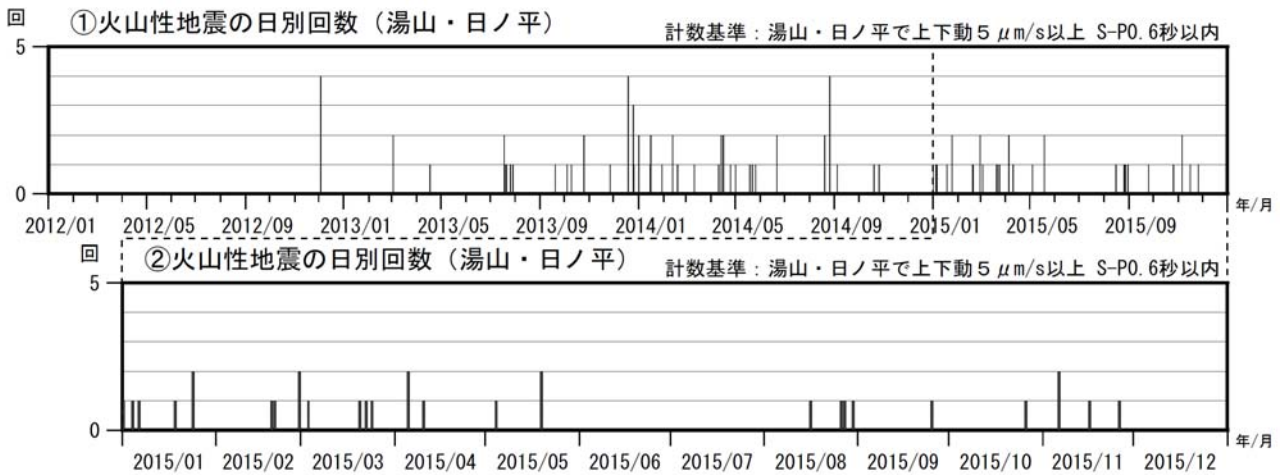


図7 鶴見岳・伽藍岳 火山性地震の daily 回数（2012 年 1 月～2015 年 12 月）

<12 月の状況>

- ・火山性地震は観測されませんでした（11 月：4 回）。
- ・火山性微動は 2012 年 1 月の観測開始以降、観測されていません。

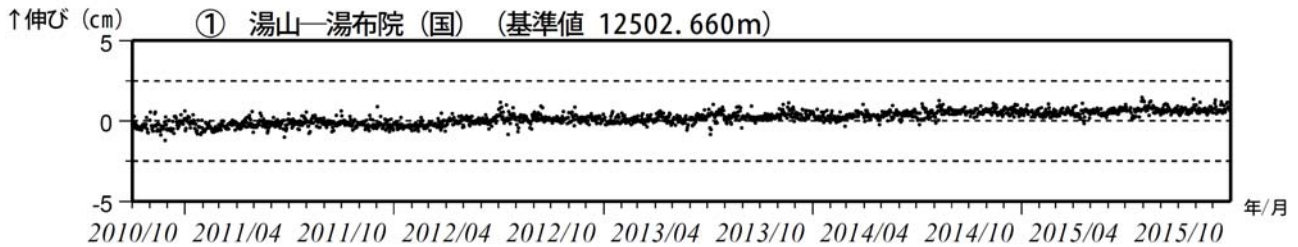


図8 鶴見岳・伽藍岳 GNSS連続観測による基線長変化（2010 年 10 月～2015 年 12 月）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この基線は図9の①に対応しています。

（国）：国土地理院

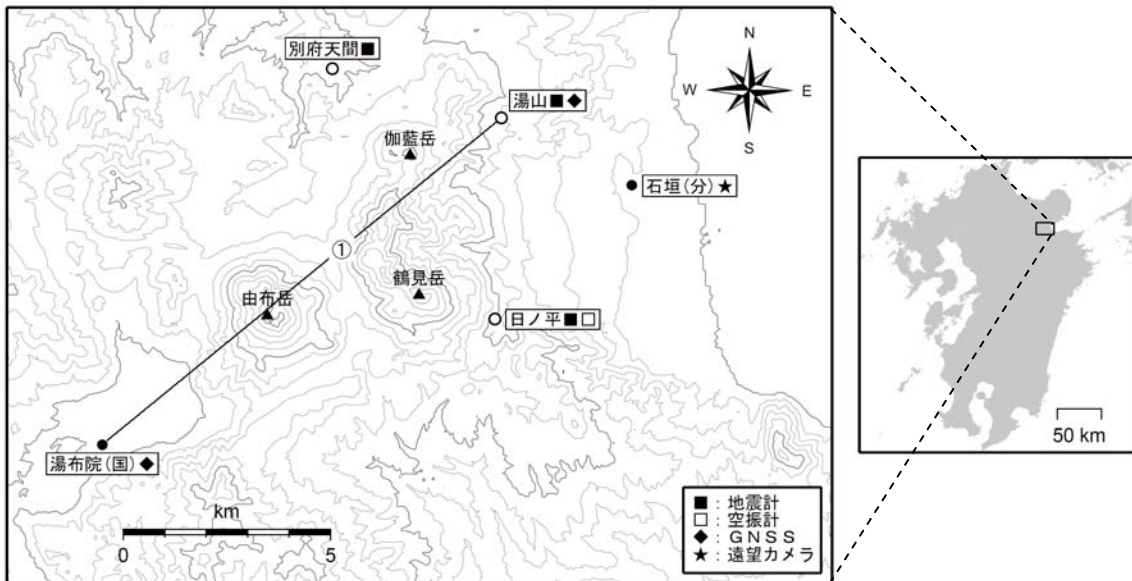


図9 鶴見岳・伽藍岳 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院、（分）：大分県

遠望観測点「石垣（分）」は鶴見岳監視カメラ（大分県）を示しています。